


登山時報四月号目次
連載 ヒマラヤの東 中村保
全国連盟総会
三万人体制へ向かって
全国連盟総会を終えて 斉藤義孝
全国副会長が語る 岡田伊佐男
全国雪崩事故を防ぐための講習会
川島高志
愛知県連女性交流山行 小嶋紀子
JWAFクリック
専門委員会活動報告
全国連盟の活動
地元会員特選ミニガイド
ほか

一部三〇〇円



二〇〇五芳山フェスタ清里集会の報告感想文集が出来上がりしました。集会に参加された連盟員の皆さん、連盟事務所に置いてありますのでお取り寄せになって下さい。

編集部

県連のスケジュール

4月		5月		6月	
1 土		1 月		1 木	
2 日	リーダ学校説明会	2 火		2 金	
3 月	常任理事会	3 水		3 土	
4 火		4 木		4 日	
5 水		5 金		5 月	常任理事会
6 木	ハイキングリーダ学校机上	6 土		6 火	救助隊会議
7 金		7 日	リーダ学校実技	7 水	
8 土		8 月	常任理事会	8 木	ハイキング机上
9 日		9 火	事務局長会議	9 金	
10 月		10 水		10 土	リーダー学校 机上
11 火	事務局長会議	11 木	ハイキングリーダ学校机上	11 日	リーダー学校 実技
12 水		12 金		12 月	遭対部会
13 木		13 土		13 火	事務局長会議
14 金		14 日		14 水	
15 土		15 月	クリーンハイク実行委第5回事務局部会	15 木	
16 日	ハイキングリーダ学校実技	16 火		16 金	
17 月	事務局部会	17 水		17 土	ハイキング実技
18 火		18 木		18 日	ハイキング実技
19 水		19 金		19 月	事務局部会
20 木		20 土	リーダ学校机上	20 火	
21 金		21 日	リーダ学校実技 ハイキングリーダ学校実技	21 水	
22 土	リーダ学校机上	22 月	クリーンハイク最終打合せ	22 木	
23 日	リーダ学校実技	23 火		23 金	
24 月	クリーンハイク実行委第4回	24 水		24 土	遭対部講習会 読図(机上)
25 火		25 木		25 日	遭対部講習会 読図(実技)
26 水		26 金		26 月	自然保護委員会
27 木		27 土	クリーンハイク前夜祭水質検	27 火	
28 金		28 日	2006クリーンハイク	28 水	
29 土		29 月	自然保護委員会	29 木	
30 日	クリーンハイク一般締切	30 火		30 金	
		31 水			

連盟ニュース
255

神奈川 4

2006.4.11



三枝木さん(横浜H.C)撮影

理事長就任に際してのご挨拶	後藤真一(カモの会) 2
神奈川県勤労者山岳連盟 第30期総会報告	事務局 村松 勝 2
救助隊雪上訓練報告	熊谷 修治 3
リーダー養成学校1年間を終えて(受講者感想)	4
2006GW山行把握	遭対部からのお知らせ 7
第22回 障害者と共に楽しむ交流ハイクのご案内	相模勤労者山岳会 8
道迷い遭難を防ぐ講習会	遭難対策部 8
クリーンハイク第3回実行委員会議事録	記録 = 大用ユキ子 9
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定	10
常任理事会報告	11
県連のスケジュール / お知らせ	12

神奈川県勤労者山岳連盟
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階
発行責任者 後藤 真一 編集責任者 村松 勝
TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

理事長就任に際してのご挨拶

後藤 真一（カモの会）

今季より理事長という大役を拝命いたしました。この原稿を書いている時点ではまだ何をどうすればよいのか正直白紙状態ですが、今まで携わってきた事務局や教育部の仕事をしながら自分なりに感じてきたことを素直に声を出していきたいと考えています。

総会時にも申し上げましたが、個人志向の登山が主流を占めてきた現在に「登山者と連盟の関わり方」をテーマに、登山者にとって山岳会は、また山岳連盟は、今どうあってほしいか、今後どうあったらよいのか、イメージだけでなく現実を見つめながら、連盟のなすべきことを模索していきたいと思っております。すぐにあれこれできないと思っておりますが、少し

ずつ与えられた任期の中で時間をかけて取り組めるよう努めます。中山理事長の後というのはなかなかプレッシャーがありますし、連盟の皆様には心許ない印象もあるかもしれませんが、何卒ご援助を求めた際はご協力いただきますようお願い申し上げます。

簡単なprofile・・・1979年頃から登山活動開始。学生時代は山岳クラブ会長を務め、社会人になってからしばらくは個人登山とパラグライダーに没頭。1993年山岳会カモの会を有志で創立、1998年神奈川県山岳連盟に加盟。理事として事務局、教育部を経て2003年より教育部長を拝命、現在に至る。好きなジャンルは沢登り、クライミング。

神奈川県勤労者山岳連盟 第30期総会報告

事務局 村松

去る2006年3月12日10時～17時にかけて、神奈川県民センター402会議室に於いて、神奈川県勤労者山岳連盟第30期総会が開催されました。

各会の代議員、理事合わせて約60名の参加者がありました。

まず、理事長より2月に行われた全国総会の報告と保険法改正による遭対基金への影響についての考察が報告されました。続いて、2005年度の総括、決算と2006年度の方針、予算についての報告が各専門部より行われました。2006年度からは救助隊が遭対部から独立して活動することや、2005年度は連盟を3つの会の脱退や、リーダー学校の生徒数の減少等による収入の減少があり財政が逼迫していること、引き続き2006年度も厳しい財政状況が

続くこと等が報告されました。

そして、質疑応答が行われた後、総括、方針、決算、予算は賛成多数で承認されました。

その後、理事役員の選挙が行われ、第30期からは理事長が交代し、新体制で連盟の運営を行っていくことになりました。



みずなら山の会 報告 小川眞澄 計32名 (男20名 女12名) 平均年齢53歳

3/11 かぐらスキー(3)	(2)	4/7-8 白馬・金山沢(2)	5/5-6 白山
3/11 北八つ・横岳(3)	3/25 幕岩(3)	4/7-9 五竜(3)	5/12-14立山・真砂沢
3/12 広沢寺(3)	3/25 総会	4/12 例会	5/19-20 針ノ木雪渓
3/18 幕岩(2)	4/1 鷹取山(12)	4/14-16 八方尾根(12)	5/27 丹沢
3/18-19 焼山(1)	3/31-4/1 巻機山(2)	4/14-16 爺ヶ岳東尾根(2)	5/28 クリーンハイク
3/19 鶴ヶ鳥屋山(9)	4/2 ミツバ岳(8)	4/29-5/2 白馬	
3/21 吉野梅郷・日出山	4/2 幕岩(3)	4/29-5/4 八甲田	

こだまの会 4名

久良岐ハイキングクラブ 報告 三上茂 計8名(男4女4) 平均58歳

3/12 鎌倉歩き(5+)	4/1 室内例会(6)	平	5/28 クリーンハイク
3/21 越前岳(5+1)	4/9 春の公開ハイク湘南	5/13 室内例会	6/3 室内例会

緑と星スキー山の会 2名

さがみ山友会 18名

こまくさハイキングクラブ 報告 山田日出子 計15名(男4:女11) 平均63歳

横浜山楽会 報告、菅野藤雄 計24名 (男13 女11) 平均61歳

カモの会 計73名 (男43 女30) 平均34.5歳

山行一覧はホームページに載っています。(編集部)

白嶺岳和会 11名

雪重山の会 計20名(男 女) 平均 歳

山行一覧はホームページに載っています。(編集部)

地平線の会 8名

裏山探検隊 9名

ハイキングクラブ春らん 3名

やま++ 報告 柴田勇作 計12名(男8:女4) 平均46歳

3/8 総会事前打ち合わせ・百合丘(10)	3/20 高尾山南稜(1+1)	4/1-2 新潟・角田山花観	4/16 総会・溝口大山ふるさと館
3/11 山スキー・菅平・根子岳(4)	3/21 山スキー乗鞍岳(2)	察ハイク	4/23 山スキー・乗鞍岳
	3/21 マイナールート 南大菩薩 大滝山南稜(3)	4/3 鈴鹿・藤原岳	
3/18 奥多摩・三頭山(3)	3/23 例会・百合丘	4/12 勉強会(自然保護)	
		百合丘	

常任理事会報告

2006年4月3日 19時～22時 連盟事務局

1. 保険法改正の遭対基金への影響についての討論
4月の更新時に会員に周知すべき。が、将来が不透明。
全国からの情報を取得。
2. 藤沢山の会の海外事故に対する遭対基金申請。
全国、県連への計画書未提出という問題はありますが県連としては申請を行う。
ただし、遭対基金の申請基準などの定款の周知

を、藤沢山の会として、県連としての今後の改善方針など文書を添える。

3. 遭対部の取り組み報告。
4. 救助隊。 捜索救助要請規定、要請者の費用負担に関する規定案の確認と常任理事会での承認。
5. 組織部。 労山の連盟紹介のパンフレットを公共の場所に置くことについて。

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会 報告：佐々木利江 計55名(男33 女22) 平均 歳

2/25-26 県)リーダ校(1)	3/12 川高尾山(4)	(3)	刷
関ノ救助隊交流(1)	3/17-19 山ノ湯の丸山	3/26 FC太刀岡山(8)	4/26 例会
2/27 編笠山(3)	(4)	4/12 登)机上・読図	
3/4-5 長野リーダ校(1)	3/21 川吉野梅郷(6)	4/19 運営委員会	
3/11-12 硫黄岳PH(4)	3/25-26 丹沢三峰山縦走	4/25 機関紙・編集、印	

川崎ハイキングクラブ 報告 樋渡輝彦 計109名(男51 女58) 平均57歳

2/18-19 三筋山(5)	3/11 (3)	3/26 二子山	4/16 鍋割山
2/19 (8)	3/12 宮地山-セイメイバ	3/29 三国山	4/21 釜伏山-二本木峠
2/22 例会(43)	ン山(6)	4/2 大和の千本桜	4/22-23 天城山
2/25-26	3/18 塔ノ峰	4/8-9 谷川岳(雪上トレ)	4/23 小倉山
3/3-4 八丈富士・三原山	3/19 不老山	4/9 塔ノ岳	4/26 例会
(11)	3/19 生藤山-陣馬山	4/9 棒ノ折山	4/29-30 小金沢連嶺
3/5 宮ヶ瀬ダム-南山(11)	3/22 例会	4/12 運営委員会	
3/8 運営委員会	3/26 お坊山・大鹿山	4/16 破風山	

川崎柴笛クラブ 報告 篠原 計23名(男15 女8) 平均48歳

柴笛の山行一覧はwww.shibabue.comで公開しています。

アルパインクラブ横浜 報告 熊谷博美 計42名(男23:女19) 平均37.4歳

山行一覧はホームページに載っています。(編集部)

横浜ハイキングクラブ 報告 白鳥松男 計55名(男19:女36) 平均59歳

3/5 シダゴ山(14)	3/19 鍋割山	4/2 鷹取山・岩トレ	4/13 室内例会
3/9-11 岩岳スキー(8)	3/21 戸倉三山	4/8 新治市民の森	4/23 餅つき山行 景信山
3/9 室内例会	4/1 大磯・高麗山	4/16 相模湖-石老山	

横浜こぶしの会 報告 田辺美由紀 計25名(男15人 女10人) 平均年齢49歳

横浜わらび山の会 報告：初山輝夫 計18名(男6 女12)

3/5 幕山(5)	3/24 大山三峯(2)	4/9 扇山	5/21 交流ハイク
3/7 百蔵山(2)	3/26-27 一の倉・雪ハイ	4/16 加入道山	5/21 未定
3/18 兜山(4)	ク(7)	4/22 定例会	5/28 丹沢クリーンハイ
3/19 丹沢ヨモギ尾根(5)	4/2 総会	4/30 御正体山	ク
3/22 烏場山(6)	4/8 衣張山	5/14 二子山	

横須賀むすび山の会 報告 計3名(男:女)

藤沢山の会 報告 清水 守 計98名(男41:女57) 平均59歳

3/6-8 八ヶ岳・天狗岳(5)	3/18-19 金峰山(8)	4/1 屏風岩山	4/23 25回定期総会
3/11 新人歓迎湯河原(36)	3/25 沼津アルプス(14)	4/15 花観察会	
3/15 石老山(9)	3/29 屏風岩山(9)	4/22 テンブラ山行・森	
3/18-19 北八ヶ岳(8)	3/31-4/1 御在所山	戸川	

小田原ナーゲル 報告 春日谷 40名

HPの山行報告をご参照下さい。http://nagel.jp/

相模勤労者山岳会 報告 藤田耕市 計40名(男25:女15)

2/24-26 谷川岳・西黒尾	房山 国見岳 普賢岳」	(1)	中ノ沢(4)
根周辺(県連ト講師活	(1)	3/17-23 清里~瑞垣~朝	3/24-26 赤岳・天狗尾根
動)	3/8 湯河原 幕岩(4)	日岳~甲武信岳~雲取	(県連講師活動)(2)
3/5 広沢寺清掃活動&RC	3/10-11 奥秩父「大ドッ	山(2)	3/25-26 浅間山(1)
T(5)	ケ(3)	3/20-21 湯河原 幕岩(1)	
3/15-22 九州「尾鈴山 市	3/17-18 天女山~権現岳	3/22 奥秩父「名栗川・	

救助隊雪上訓練報告

熊谷 修治

1月21日~22日に雪上における組織訓練を、神奈川県地区センター(21日18名)、谷川岳周辺(22日19名)で行いました。

昨年未指導的立場にあった大河内彩子さんを亡くし、隊員には隊の存在意義の再確認と、自覚と奮起が要求されています。そこで現在実践的な体制を目指して組織強化に取り組み中です。幾度か開かれたミーティングでは個々の技量の向上と、隊員同士の意思疎通の重要性を再確認しています。訓練でも技術的なことに加えて、実際に本部を構えて捜索にはじまる一連の出動のながれをシミュレートする機会を増やし、現場の最前線だけでなく様々な場面での現状の問題点を洗い出しています。

今回は、実践的で効果をあげた埼玉・東京との9月の合同訓練に続いて捜索のシミュレーションを谷川岳西黒尾根下部で計画しました。前日の土曜日に神奈川県地区センターにおいて、雪上における梱包技術、ロープワーク、GPSの使い方などを練習した後、緊急時の体制を全体で確認しました。そして3班に分かれての出動準備を実際に行いました。当日の訓練は、結果的には雪質の不安定さもあり、白毛門尾根筋での搬送訓練に縮小されましたが、捜索に威力を発揮するGPS運用を本部との通信で試してみたり、組織的なロープワークを必要とする搬送を班単位で行って混乱しながら今何が足りないのかを確認したりと、次への布石をうつ機会となりました。参加者の感想では、頭で考えていたおりにスムーズに運ばなかったというものや、他会メンバーとの連携の重要性を再認識したというものが多く聞かれました。また最も重要な隊員自身の安全確保に対して、更なる自覚と工夫の余地があるとも感じられました。

救助隊では今後も連盟会員の遭難に対し、人命救助・後遺症なき早期社会復帰を支えていくべく、積極的に他県や他団体とも接触をとりながら、一步一步進んでいきます。

なお救助隊は、登山能力に優れたメンバーにとどまらず、本部・事務方・渉外・現場での多彩な戦力・人材を求めています。協力いただける隊員を随時募集しています。



以下は参加者の感想及び反省です。
・初めて本部詰め(車内を現地本部とした)を

やった。GPSの表記方法の違いにとまどったが本部結めはよい経験になった。

・皆でGPS機器の使い方に習熟しないとイケない。時間あわせなども必要

・要領よくいかなかった。役割分担しててもうまくいかなかった。班単位で効率よく動くことができなかった。

・冬の救助隊訓練は初めてだった。人も多く、どう進めるのが良いかが難しかった。

・GPS、無線機を担当した。GPSが加わったことにより行動が複雑化した。無線に関しては今までの経験が役に立った。

・また是非参加したい。

・Aパーティーを担当。先頭が多かったので弱層テストやラッセルをしながら進んだ。シート梱包は雪玉で子供サイズであったが、シートの大きさが足りず、工夫の必要を感じた。最後の支点には立木を利用したが、効率の良いことがわかった。

・アンカーが途中で抜けてしまったのが反省。GPSの値の違いを機器間のバラツキだと思いこんでしまった

・効率よくやることの難しさを感じた。寄せ集めの集団をコントロールするのは難しい。GPSには期待している。

・もう少しスムーズにゆくものだと思っていたが、思い通りにはならないことを感じた。他の会の人とのつながりができた。

・計画していたことができず残念だったが、GPSが新鮮だった。次につなげるため、家に帰っ

てからすぐに復習して欲しい。救助隊の交流会を実施したい。

・ロープワークの説明を担当したが、説明の難しさを感じた。切磋琢磨したい。今日の内容に関しては手順作りの難しさを感じた。工作のローテーションができたのが成果。GPSの使い方に関しては、本部と各隊の役割分担の整理が必要。そうしないと危険が発生する可能性がある。

・指示待ちになることが多かった。

・昨日わかったつもりであった1/3システムが今日は作れなかったことが残念。自ら動けるようになることが課題。GPSの威力を感じた。

・第2テラスの支点の位置が、上から降りてきた人の通路となってしまう、位置の工夫が必要なのを感じた。無線とGPSはセットの方がよい。本部と現場の連絡のタイミングの難しさを感じた。

・初めてだったので何をしたいのかわからなかった。

・GPSを本部で担当した。普段からGPSを使っていたが、今回は新しい使い方をした。マニュアル作りの必要性(操作方法の習熟と間違いを防ぐ)を感じた。課題は多いが成果もあった。

・GPSを使うことは始まったばかり。今後の改善が必要。

・本番はもっと混乱する。トレーニングによる慣れが必要。GPSに関してはもっと改善を進めること。

リーダー養成学校1年間を終えて(受講者感想)

曾根文彩

山に親しむようになって数年。そろそろ友人と気ままに歩いているだけでは良くないのかもしれないと思い始め、どこか山岳会に入った方が良いのかな、そうは言っても山岳会は敷居が高いなあなどと思いあぐねていた時、たまたま雑誌の告知を見た友人に薦められ、締切りギリギリにリーダー学校(以下L学校)の門を叩きました。

それがまさかこんな充実した1年の幕開けだったとは思ってもいませんでした。

そもそもアルパインの世界に全くの無知だったので、どういったことをやるのかよく分か

らずに入ってしまったのが正直なところでした。おかげでひとつの講義を進むたびに新鮮な驚きの連続で、新しいことに会うことが楽しくて楽しくて、新たな友と共に学んでいくことが楽しくて楽しくて・・・。

ゼロから始めることばかりだったので、前半はほとんど技術的なことにしか目が向きませんでした。と言うより、技術的についていくのが必死だったと言ったところでしょうか。しかし後半になると、それまでとは意識が変わっていくのを自分の中に感じました。それは、パーティ行動が増えるに従って、パーティにおける自分の役割とは、パーティ全体でひ

クリーンハイク第3回実行委員会議事録

2006/3/27(月) 記録 = 大用

出席者：藤沢山の会(萩原) 地平線の会(磯部 小林 石田 吉岡) みずなら山の会(金森) カモの会(児玉) アルパインクラブ横浜(大日向 熊谷) 久良岐HC(三上) 横浜HC(三枝木 中尾 安田) 川崎HC(当山 大用) 横浜こぶしの会(田辺) やま++(栗田) 10会17名参加

1 緊急・救助体制について

県連救助隊長熊谷氏より クリーンハイク通信体制案(別紙参照)の説明と昨年の反省、問題点について意見交換をし、最終的には、県連連対で煮詰めていきその後の指示待ち意見交換の内容(一部)

各会で無線機所有者(当日参加)とリーダー名を早目に連絡する(昨年は遅かった)

事前に無線者とコンタクトをとる(応答ルール決める)

救急医療品パックは基本的には、各会で用意し 予備程度とする等

2. クリーンハイク参加コース一覧

コースと参加会名

A 戸川林道(林道とキャンプ場周辺)

B 大倉高原(大倉 ~大倉高原山の家まで) 横浜HC

C 大倉尾根~堀山まで 川崎HC

D 大倉尾根 花立(堀山~花立まで) こぶしの会

E 大倉尾根 塔ノ岳(花立~塔ノ岳)

F 表丹沢県民の森(林道と県民の森周辺) 久良岐HC ふじさわ山の会

G 表尾根 ニノ塔(ヤビツ峠~ニノ塔周辺)

H 表尾根 三ノ塔(ニノ塔~三ノ塔周辺) 川崎HC

I 丹沢山(塔ノ岳~丹沢山まで) AC横浜 みずなら山の会

J 鍋割山(後沢乗越~鍋割山まで) やま++ かもの会

K 登山道整備(県主催)

*参加申し込み未だの会は早目に申し込みの確認をしていく

*各会参加コースのリーダーと無線機所有者未だの会は早めに連絡(磯部まで)

*一般参加者の把握と名簿を5/15までに作成

*クリーンハイク用ポスター(拡大コピー)

とピラをスポーツ店(コージツ IBS カモシカ)にお願いする

実行委員会会計 = 田辺(横浜こぶしの会)

最終打合せ日を5月22日(月)に変更。

丹沢水質調査担当会

コース・場所・担当会

沢1 水無本谷(出会いとツメ)

小田原ナーゲル

沢2 源次郎(出会いとツメと竜神の泉)

みずなら山の会

沢3 勘七の沢(出会いとツメ)

AC横浜

水場 大倉高原山の家と塔ノ岳水場と後沢乗越水場 川崎HC

名水 葛葉の泉と春岳沢水場とゴマ屋敷水場 藤沢山の会

次回実行委員会4/24

実施要綱一覧

「登山道整備」 経過報告 = 高橋
登山道整備の実施要領の打ち合わせを、下記の通り行った。

日時 3月16日(木) 16時30分~17時30分
場所 神奈川県自然環境保全センター 厚木市七沢

出席者 自然保護課 倉野副技幹。自然公園課 井田主査。労山県連 高橋委員。

議題 登山道整備のやり方

結論 今年は、4月23日(日)に「みろく山の会」約120名位が大倉尾根の登山道整備を行うので、労山は他のコースにしてもらいたいとのことであったが、条件的に無理につき、縷々検討した結果、次の様に決まった。

県連参加者 約20名位。場所 大倉尾根一本松付近。作業内容 登山道真ん中に作られた、丸太の階段の縦杭(地盤沈下に伴い丸太は下がったが、丸太を支える両サイドの杭だけが残る)を鋸で切断する。登山道を麻袋、丸太を使い歩きやすくする。道具等 スコップ、ハンマー、鋸、丸太、麻袋、等は県が、クリーンハイク当日本部前に用意する。それを、各人が持って現場へ登る。指導員

県職員3名位予定(井田主査等)

その他 クリーンハイクで支給する、手袋、バンダナ、ビニールゴミ袋各500、土のう250を依頼した。

第22回 障害者と共に 楽しむ交流ハイクのご案内



去年は雨で中止になり、「今年は・・・」と鳶尾山で準備を進めていたのですが、2月に蛭の情報が入り、断念。

ふだん障害者の方が行けない『山』でやりたかったのですが、やむなく『横浜・寺家ふるさと村』になりました。雑木林の里山、田んぼ、野鳥や虫、小さな花を見ながら交流を楽しみましょう。

皆様の参加をお待ちしています。

期日：2006年5月21日(日) 雨天の場合は中止です。

場所：横浜市青葉区寺家町 ふるさとの森
集合場所：寺家ふるさと村 四季の家前
集合時間：午前9時30分(受付9時から)
交通機関：東急田園都市線青葉台駅 北口 鴨志田団地行きバス 番乗り場 鴨志田団地下車(料金210円)(所要時間 約10分)
行程：四季の家発(10:00)～ふるさとの森散策～昼食(アルプホルン演奏 集会)

散策 ～四季の家解散(14:30)
参加費：500円(事務費・保険料)
持ち物：弁当・水筒・雨具・レジャーシート・タオル・ティッシュ・帽子ゴミ袋・他
申し込み方法：申込書・同意書に必要事項を記入して 下記へ郵送またはFAXしてください。

申し込み・問い合わせ先：

高橋隆昭 〒228-0821 神奈川県相模原市相模台7-40-14

042-743-4530(FAX可)

宮崎みち 042-743-4361(FAX可)

締め切り：4月30日

主催：相模勤労者山岳会 042-744-9533 〒228-0821神奈川県相模原市東林間3-18-3 川島荘107

後援：相模原市 NPO相模原ボランティア協会 神奈川県勤労者山岳連盟

道迷い遭難を防ぐ講習会

私は何処？ どちらへ行くべき？

道迷いを防ぐ講習会(予告編)

主宰：神奈川県勤労者山岳連盟 遭難対策部

山中で「私は何処？ どちらへ行くべき？」と迷ったことがありますか？

「ある」と答えたあなた、あなたは、その時どう対処しましたか？

地図が読めると山歩きはもっと安全にもっと楽しくなります。

2004年の山岳遭難をまとめた警察庁の統計によると、道迷いは全体の34%を占め、第1位となっています。転・滑落事故ももとをただせば、道迷いを起因とする事故が多いことも考えれば、道迷い遭難の占める割合は実はもっと多いといえます。

今年度、遭難対策部では新たに読図講習会を設けました。地図の見方、読み方の机上講習を行い、実際に歩きながら身につけていきたいと考えています。是非多数ご参加ください。

読図机上講習

日程：2006年6月24日(土)(時間は未定)

場所：かながわ県民活動サポートセンター(予定)

持ち物：指定した区分の2万5線分の1地図、登山

地図、コンパス(シルバタイプ)、定規、色鉛筆等筆記用具

読図実技

日程：2006年6月25日(日)(集合場所・時間などは未定)

場所：丹沢近郊を予定

持ち物：日帰りハイクの装備

参加費：未定

* 詳細は5月発行の連盟ニュース、および県連ホームページに掲載します。

みなさんどうぞお楽しみに！



とつ山の山行を成し遂げるということとは、等を意識するようになったのです。山の怖さについても以前に増して考えるようになりました。

全てのカリキュラムを終えた今、私は自分自身の中に何かが育ちつつあり、何かの入り口に立っているような、そんな気がしています。

もしかするとこの時点の自分からL学校に入るべきだったのかもしれない、とそんな気もしています。

無所属でありながらも、労山の教育機関であるリーダー学校にお世話になり、個人の時間を割いて多くのリスクを抱えつつご指導くださる講師の皆様には、常に感謝の気持ちで一杯でありました。どうやらこのご恩をお返しすることができるのか。これから私なりに考えてみたいと思います。まずはL学校卒業生として、どんな形にしる一人前の登山者になること、そこからなのだろうと思っています。そしてそれはまだまだ遠い先のことのようにも思えるのですが。

講師の皆様、同期の皆様、1年間どうもありがとうございました。私にとって忘れぬものとなったこの1年間を、共に過ごすことができたことを心から嬉しく思います。これからも山を愛する仲間として、未永くお付き合いいただければ幸いです。

山本さゆり(無所属)

赤子のような状態から幼稚園児くらいまで成長させて頂いたような貴重な一年ありがとうございました。幼子を育てるように私たちを辛抱強く教えてくださった講師陣の皆様には頭が下がります。山登りの基本とともに、人とのつながりの基本を教わった気がします。講師の方々がいつもおっしゃるモチベーション、少しでも高いモチベーションを持てる様に自分の技術と体力を向上し、自分に自信を持ってより豊かな自然の中へ訪ねていきたいと思っています。そして一つ一つの出会いを大切に感じる感性をいつまでも忘れないでいたいと思います。一年間共に学んできた仲間の皆様本当にありがとうございます。世代を超えて交流できたこと忘れません。またお会いできる方々にはご迷惑をかけますがよろしくお祈りします。

木村明日香(カモの会)

あつという間の1年間でしたが、ご指導して下さった講師の皆様、共に学んだ生徒の皆様、本当にありがとうございました。

私は学生時代から山歩きをしていたので歩くことや体力の心配はあまりなかったのですがロープワークや読図、天候判断などの技術的なことに自信がなく、いつも人に頼りがちだったのできちんと勉強したいと思い、リーダー学校初級に申し込みをしました。

仕事や私用等で実技になかなか参加できず辛い時期もありましたが、講師の方々の厳しくもあたたかい指導や高いモチベーションを持ち続けた生徒の皆さんと共に会とは違った緊張感のなかで1年間勉強をすることができたことは、本当に貴重な体験だったと思っています。まだまだ学ぶべきことはたくさんありますが、いろんなことを一度にできない性分なので中級進学は断念しましたが、せっかく縁があって共に1年間学ばせていただいたので是非皆様と山行をとものにできればと思っています。

今後ともよろしくお祈りします。

結城明智(横浜ハイキングクラブ)

先日の卒業山行では、心に残る大きな感動を皆様からいただき、ありがとうございました。まさに今回の卒業山行が、この1年の自分自身の集大成のような、充実した山行になりました。

アルパイン登山では、何の経験も無かった私にはこのリーダー学校での講習は初めての事ばかりでした。春のクライミング講習から始まり、読図、沢登り、そして冬山登山等・・・感動と緊張の連続で「あつ」と言う間に1年間が終わってしまいました。

そのような私を粘り強くご指導して下さった講師の方々には、頭が下がる思いでいっぱいです。

また素晴らしい山仲間と出会い、知り合え共に学べた事は、これからの登山活動の中で大きな心の支えになると思います。

まだまだ山歴が浅く弱輩の私ですが、これからの山行には今回学んだ技術を生かし、安全登山に繋げて行きたいと思っています。

人見実和（カモの会）

カモの会に入って実は去年春で約4年。最初の3年半がほぼ幽霊会員様であり、年に1~多くて2回の山行ペースでした。

それが、一昨年（昨年）の6月末でのリストラ（っていうのかな？）を受けて、フリーターになったのをきっかけに優良（??）会員に変身！私の山人生が始まったのでした～

やりたいことしか出来ない性分というのも有って、とにかく興味の有る沢ばかり行く日々

沢でうまく滝を登れないとなると、今度はそのためにクライミングに力を入れてみたり（今はそのクライミングに一番ハマってますが。。）。

あ～、山の基本となる歩き、縦走どころかハイキングですらあまりやったことが無い状態で、チョット重い荷物を持つとフラフラするしゼイゼイ息は切れるし、。

しかも何かの山行に参加するにも、いつも「連れて行ってもらうモード」全開バリバリ。そんな時、カモの会の面倒見の良い某先輩方から言われた一言が効きました！

「仲間として一緒に行くならメンバーにならないと。今のひとみさんは、ただ連れて行ってもらう“ゲスト”だよ。俺たちはガイドじゃないんだから。」「まずはメンバーとして山に行けるようになる事。そして段々自分もリーダーとして後輩と一緒にいくこと」

なんか凄くショックでした～。「私ってゲストだったんだ～。」「メンバーって何？リーダーって何なの～?!」でもショックを受けて落ち込むと、必ずメラメラと復活する性分なので、「くやし～!!何とかしてやる～!!」なんて息巻いてみたり、それにはどうしたら良いか～、と考えているときに、その先輩方にリーダー学校を勧められました。

入学してみると、出だしこそ好きなクライミングでしたが、次に続く読図、気象、と苦手なものが続き、「リーダー学校に入ったら何でも出来るようになったら」なんていう夢物語はパ～ッと消えてなくなりました。

学校に入っても、入っただけでは全然ダメ。結局は自分が努力しなくちゃ何にも出来るようにはならないんだな～、と、これは今現在も実感しています。（っていうか子供のときから言われてる??）

体力や知識や技術や、多分人間性でさえ、

努力で変えていくことが出来る、、って素晴らしいですね！でも変えようと本気で思わないと、きっと変わらない。

この1年間で、本当に素敵な仲間たちや講師の方々と出会った事、山行を共にしてきた事は、私の人生の中で素晴らしい財産だと思います。

そして学ばせてもらった中で、自分のモノにした事、自分の努力不足でモノに出来なかった事、両方あります。

この1年間で自分は“メンバー”になれたのか？次のステップに進むには何が足りないのか？もう自分ではわかっています。わかっているやめるのか、それともやらないのか、他にも考えることが有ってずっと悩んでいたけど、出来るところまではやってみよう！！と答えを出しました～！！というわけで、2006年度からは中級進学です！

皆さん、またよろしくお願ひしますね～

そしてそして、リーダー学校を卒業していく仲間のみんなとは、山のぼらーとしてきっと又どこかの山で一緒できること、もしも一緒できなくても、それぞれに素敵な山岳ライフを送って行くだろう事を信じています

三瓶 健（藤沢山の会）

一般的な山歩きからのステップアップを目指し、リーダー学校の門戸を叩きました。

この一年間、頭の中には常にL学校のことがあったように思えます。

講習の前期は、岩、沢に初めて触れたこともあり驚きの連続でした。

大げさな表現ですが、自分がそのような世界に踏み込んだこと自体、入校前は考えられませんでした。

後期に入ると、徐々に「自立した登山者とは何か」と考えるようになりました。

そして、締め括りとしての卒業山行では、生徒による自主的な山行を目指し、それを皆で達成できたと思います。

まとめ役を務めさせていただきましたが、これまでの講習の中で最も貴重な経験を積ませていただきました。

講師の皆様、一年間本当にありがとうございました。生徒の方々、お疲れさまでした。仲間と共に学ぶことがこんなに楽しいことだ

なんて、社会人になってからは久しく忘れていたことでした。（山田洋次監督の「学校」の舞台になりそう）

また山でお会いできることを楽しみにしています。



ゴールデンウィーク・山行把握にご協力ください

平成18年04月04日 神奈川県勤労者山岳連盟 遭難対策部

大型連休を直前に控えて、各会では山行計画の議論が活発に行われていることと思います。さて、遭難対策部では例年どおり、各会のGW山行について計画の把握をおこないます。つきましては各会の山行管理者には、会で行う計画書を下記のいずれかの方法で提出することをお願い申し上げます。

- (1) 県連事務所へファックス(045-434-2726)
- (2) 郵送(〒211-0882 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2永田ビル3F)
- (3) メール: akio@tory.com (担当: 遭難対策部・鳥越)
- (4) 県連ホームページからの入力 (<http://k-rouzan.net/>)

対象とする山行:

日程が 4月29日(土)～5月7日(日)にかかるもの

山行管理は通常時期と同じに各会にておこなっていただきます。遭難対策部の山行把握の目的は、事故発生時における初期対応の迅速化を図り、気象遭難等の場合には同地域への入山状況の確認と情報の提供に役立てます。

蛇足ですが遭難対策部よりの注意喚起をお伝えします、春山といえども寒気が流れ込むと一変して冬山に逆戻りしてしまいます。むしろ春は低気圧の移動速度が速く気象予測が難しく、また、氷点下の粉雪よりも0 付近で降る湿雪のみぞれなどに遭った時の方が凍死の危険もありえます。

また、何十年ぶりかの大雪による残雪や、例年にない雪崩があるかもしれません。沢においても水量が増加し、水温が低いことが予想されます。

くれぐれも油断することの無きよう、十分に計画を練った上で、春山を楽しんでください。

以上、どうぞ皆様のご協力お願いいたします。